

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 コーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 木曾の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和 5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2192600217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①現在、看護師1名を配置。利用者様の異変に早急に対応できる等、医療体制が充実してきている。
②リハビリを、主治医からの指示、又はご希望される方は、外部による訪問リハビリを行っている。
③施設敷地が広い事により、畑、花壇等積極的に、利用者様に取り組んで頂いている。
④地域の方による交流として、布遊びの会、ももなの会等で当施設をご利用。その際、邪魔にならない程度で参加、見学をさせて頂いている。
⑤一部の方にはなるが、麻雀、カラオケ、キャッチボール等出来る方、興味の有る方には積極的にご参加頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活歴や興味のあることを把握して、利用者が好きな時に居室で塗り絵が出来るように机と椅子を準備している。犬好きな利用者のために職員が犬を連れて来て、いつも傍においてかわいがっている。職員は利用前に麻雀やカラオケが好きだった利用者のことを管理者に伝え、管理者は備品を用意して利用者は楽しんでいる。家族が持ってきた花を居室に飾り利用者と一緒に水やりしている。天気が良い日や利用者が散歩したいと言ったときに散歩に出掛けている。マイクロバスを借りて桜や紅葉、テーマパークに出掛けている。プロ野球や高校野球の観戦に職員と一緒に出掛けている。職員の気付きや意見を大切にして利用者が楽しんで生活することが出来るように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域資源である介護予防拠点しづやまを利用されている地域の方との交流を図り、利用者・職員が地域と繋がれる環境を活かせるよう努めている。	管理者は毎月の会議で利用者が「～したい」と言った時に支援すること、出来る限り敬語を使うことなど理念について具体的に説明している。職員は利用者の興味あることを把握して洗濯や炊事、掃除など役割を持って生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護予防拠点しづやまを地域の活動に利用していただけるよう開放し地域自治体と連携、地域の森林整備等を計画している。	散歩に出掛けた際、近所の方と挨拶を交わしている。近所の方から筍や柿をいただくこともある。中学校の校長が来所されボランティアの相談があり受け入れている。除雪について地域の代表者や企業の方と話し合っ町に要請している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年4月より対面開催をしている。会議では、過去3年間の運営状況と、職員状況等を報告。又、事故検証等の具体例を報告したり、施設内コロナ感染時対応のシミュレーションも報告した。その後、各ホーム内でも各々徹底した。	令和5年度の開催計画をメンバーに案内している。書面や対面にて定期的に会議を開催し事業所の活動状況や現状を報告し話し合っている。家族が来所した時に会議に対する意見を聞いている。地域の代表者より地域の行事の案内があり検討している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ関連の連絡が多いが密に報告・相談を行っている。地域ケア会議に参加し、他事業所・多職種・関係各所との情報交換を行っている。	介護保険や分からないこと、困りごとなど町の担当とは何でも話し合える関係を築いている。困難事例や生活保護など町の担当者から相談があり受け入れている。100歳の誕生会に町長が来所し直接利用者に記念品を手渡している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し、知識の再確認と自己啓発を促している。職員が過度な対応をすることの無いよう、複数人での相談の場を設けている。	外部研修に参加した職員が会議で職員に報告している。管理者は身体拘束防止のチェックリストを職員に行わせて委員会で話し合っている。毎月のユニット会議でスピーチロックや日常生活で発生するグレーゾーンの事例を振り返り話し合っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を開催し、知識の再確認と自己啓発等を話し合いをしている。利用者の安心できる施設になるよう、接遇改善を目指しています。	職員は利用者が落ち着かなくなった時の原因を分析して、声の掛け方や対応など具体的な内容について話し合っている。管理者は会議等で利用者への接遇の大切を説明し、どんな場面でも落ち着いて対応できるように取り組んで欲しいと説明している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に働きかけ、個々のスキルアップの為の支援をし、学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族・本人にとって満足・納得して利用していただける施設となれるよう契約締結時・契約解除時のヒアリングを重要視している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナによる影響で機会を設けることは行っていない。個別の面会時や問い合わせ時に要望や意見・思いを傾聴している。	面会に来所された時や電話にて利用者の状況を伝えて家族の意見や要望を聞いている。退院後の機能訓練に歩かせて欲しいと要望があり利用者と一緒に事業所内を歩いたり散歩に出掛けたりしている。自宅で収穫した米を食べさせて欲しいと要望があったため提供して利用者に伝えている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・各ホームでの会議を行い、代表者・管理者が現場に赴く機会を多く持ち意思・意見を述べやすい環境作りに努めている。	毎月の全体会議やユニット会議に管理者が出席して職員の意見を聞いている。ユニットリーダーは日常的に職員の意見を聞いている。決めきれないことはリーダー会議で相談している。職員の要望で離床センサーや配薬ボックスを購入したり、休憩室にコーヒーマーカーを設置したりしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則に則った勤務体系に縛られず、職員個々の事情に配慮した勤務となるよう配慮している。	職員の希望により非常勤から正職員に雇用形態を変更している。職員の業務負担を軽減するために調理補助の職員を採用している。管理者は職員の家庭の状況に合わせて勤務表を作成している。勤務時間は職員の意見を聞きながら話し合って決めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ・資格取得の支援・研修参加の支援を行い、積極的に取り組めるよう努めている。	事業所が研修費用を負担し勤務として研修に参加している。認知症基礎研修や介護職員初任者研修を受講することも出来る。管理者は職員の力量を把握し外部研修会への参加を促している。新人職員の介護技術の研修は、先輩職員がマンツーマンで丁寧に教えている。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、他社様との交流は控えています。状況を考慮し再開したいと考えています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側思考介護ではなく、利用者様と共に行う姿勢で、過ごせる様に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活歴や日々の生活の中での何気ない会話や表情、動作等から暮らし方の希望、思いや意向を探り、職員同士が検討共有し、ケアへ反映していけるよう努めている。	日常生活の会話から利用者の思いを聞いている。入浴時や居室で1対1になった時に聞くこともある。困難な場合はアセスメントや家族から情報を得て職員が問い掛けて利用者の表情やしぐさから把握している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を設け、会議・サービス担当者会議でケアマネージャー、介護職員が家族様、本人様の思いや意見を取り入れ、その人らしい介護計画書の作成に努めている。	利用者の担当職員が毎月モニタリングを行っている。計画作成担当者はモニタリングの結果や職員から情報を収集して、ユニット会議で話し合い、他の職員の気付きを反映している。来所した家族には意向を聞いているが聞けていない家族もある。	来所時や電話にて利用者の状況を説明し計画に対する意向を聞き、職員間で話し合っって現状に即した計画を作成できるように取り組んで欲しい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々にケース記録を作成し、ケアの実践状況、気づきや工夫を記入している。独自の申し送りノートや業務日誌を活用し、職員同士の情報共有が行えるように努めている。	利用者の言葉や心情、家族の要望などを記録している。行事や外出など活動状況を写真で残している。職員は出勤したときに申し送りや個別の記録を確認している。記録や職員の気付きからケアや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや生活層に応じ、馴染みの活動機会の提供(戸外での剪定・畑・花壇・草取り)(戸内での裁縫や洗濯・料理などの家事)を積極的に提供している。	地域の現状を勘案し共用型デイサービスや空所利用型の短期入所を受け入れている。利用者より美容室に行きたいと言われたが家族が遠方のため職員と一緒に出掛けている。家族が都合の悪いときは職員が医療機関の受診に同行し、家族に結果を報告している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを開放しています。施設利用者は、三密を回避し利用している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医の往診も一部で実施しています。家族様の希望に沿って対応している。	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行する場合は日常生活の様子を書面化し、渡している。急病の時は職員が医療機関に同行し結果を家族に報告している。受診の結果について分からないことは職員から医療機関に問い合わせ確認している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院する際は介護サマリーを作成し、病院関係者へ、利用者の情報提供を行い医療機関と連携を図っています。	利用者が入院した時は事業所から利用者の情報を医療機関に提供している。入院時の状況は電話にて家族や医療機関に確認している。職員は退院の連絡があった時は医療機関で行われる退院カンファレンスに参加して情報を交換している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様と家族様で話ができるよう家族様に働きかけている。本人様や家族様にとって具体的に捉えるきっかけとなれるよう努めている。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。状態の変化に伴い早い段階から家族に相談し医療機関と情報を共有しながら意向に添えるように取り組んでいる。主治医の意見や家族の意向を考慮しながらできる限り事業所で対応できるように取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、各ユニットに配布してある。緊急救急対応等の勉強会を看護師・ケアマネを中心に施設内にて開催し急変時の対応に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防災委員会を設置し、施設全体で避難訓練や消火器の取り扱いの勉強会を行っています。災害時、地域より協力が得られるよう、自治会にお願いをしています。	土砂災害や山林火災など様々な災害を想定して訓練を実施している。食糧や水、ガスコンロ、ガスボンベなど備蓄している。土砂災害特別地域のため地域の代表者や近隣の企業と話し合っている。運営推進会議で訓練への参加を依頼しているが協力が得られていない。	地域の代表者や近隣の企業と相談できる関係性を構築されている。今後も避難訓練や災害時に協力してもらえるように継続した関りを期待したい。

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切にすることを職員会議やホーム会議等で話し合い職員同士で徹底している。	管理者は全体会議やユニット会議において利用者の尊厳を守るために具体的な事例を挙げて説明している。リーダー会議において各ユニットの状況を報告し話し合って職員にフィードバックしている。職員は言葉使いに気を付けて自分がされて嫌なことをしないように心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が日常生活を送る中で、常に本人様に選択する機会を設けている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のルールを遵守しながら職員同士が連携し業務を行い、利用者個々のリズムを尊重できるよう努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事参加等の支援に力を入れ、食事形態の可能な範囲で、普通食に近づけていけるよう努めています。	栗や筍、畑で採れた野菜など季節の食材を献立に入れている。誕生日に弁当を取って楽しんでいる。利用者から希望があり居室で食べている。おはぎや餃子、お好み焼きなど利用者と一緒に作っている。利用者は包丁を使ったり、食器を拭いたり出来ることを手伝っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や味の好み、摂取癖等の把握に努め、個々に合った栄養摂取や水分確保を実施しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の身体状況に合った方法で口腔ケアを実施。定期的に口腔診療、希望者や必要な方には受診を実施。歯科医師による口腔ケアの勉強会も取り入れています。	利用者の状態に合わせて声を掛けたり、見守ったりして口腔ケアを行っている。出来ない方は職員が介助している。入歯は職員が預かり消毒している。歯科医から職員に勉強会の提案があり、歯ブラシの持ち方や口腔ケアの仕方など教えてもらっている。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し記録に残し、排泄パターンの把握・排泄状態の情報の共有を行い、適宜自立に近い排泄ケアについて職員間で話し合っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望を聞き、入浴を実施している。また、気持ちよく入浴できるよう、時間に余裕を持ち実施している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に程度の運動を提供し、夜間の安眠に繋げている。夜間の睡眠状況について職員間で話し合いを行い、共有している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報用紙に目を通し理解に努めている。看護師や先輩職員は後輩職員に対し適宜助言や指導を行い、服薬管理は複数の職員・看護師で実施しています。	薬が変更された場合は申し送りや記録に記入して職員に周知している。職員は誤薬がないように薬の準備や配薬は複数の職員が関わり、日付や名前、利用者に確認して飲み込むまで確認している。利用者の状態に応じて薬剤師に相談し飲みやすい形状にしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初期対応や日々の生活から把握されていく本人像を尊重し、出来る事・やりたい事に取り組める機会を積極的に提供し、家事参加や庭木の手入れ・畑・裁縫など日々の生活の中でのやりがいの提供にも努めています。	好きな時に居室で塗り絵が出来るように職員が机と椅子を準備している。犬好きな利用者のために職員が犬を連れてきてかわいがっている。利用前から好きな麻雀やカラオケを職員と一緒に楽しんでいる。家族が持ってきた花を居室に飾り利用者と一緒に水やりしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内外を散歩したり、家族様の理解・協力を得て、外出や外泊を実施しています。	天気が良い日に散歩に出掛けている。家族と医療機関を受診した帰りに外食や買い物に出掛けている方もいる。マイクロバスを借りて桜や紅葉、テーマパークに出掛けている。プロ野球や高校野球を職員と一緒に観戦に出掛けている。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関して、当施設では持って頂いていません。必要な時に必要な物を購入している。高価な物品は家族様に相談した上で購入しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があった際、相手方の了解を得て電話での通話を提供しています。手紙の交換についても投函は職員が代行していますが、自由に行っていただいています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には多種多様な利用者様がおられる為、刺激的な色遣いは避け、利用者様皆さんが作成した季節のポスター等を掲示するようにしています。案内表示は大きく分かり易く表示掲載しています。	リビングや廊下に職員と一緒に作成した季節の作品を飾ったり、季節のイベントの写真や事業所のたよりを掲示したりして会話のきっかけとなっている。職員は定期的に温度や湿度を確認して快適に過ごせるように配慮している。気の合う利用者同士が近くに座れるように席を配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過度に交流を推し進めず、自発的な交流を促し、自ら居場所を作って頂く様に仕向けています。難しい場合は、職員が入り心地よい空間を作り込む様に心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の個性を活かし、「自分の家」として考えて頂けるよう、模様替え等もやって頂いている。自分らしさを表現できる物品を模索し、職員は出来る範囲で対応しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様によって、出来る事・理解度は様々であり、一人ひとり環境が違うのも当然であります。極力、自立した生活が出来る様に、個別対応とし環境造りをして行きたいと考えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 iコーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 揖斐の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192600217-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域資源である介護予防拠点しづやまを利用されている地域の方との交流を図り使用しやすい環境を作る。利用者・職員が地域と繋がれる環境を活かすよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護予防拠点しづやまを地域の活動に利用しやすいよう開放しています。また地域自治体と連携し、地域の森林整備等を計画している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年4月より対面開催をしている。会議では、過去3年間の運営状況と、職員状況等を報告。又、事故検証等の具体例を報告したり、施設内コロナ感染時対応のシュミレーションも報告した。その後、各ホーム内でも各々徹底した。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナ関連の連絡が多いが密に報告・相談を行っている。地域ケア会議に参加し、他事業所・多職種・関係各所との情報交換を行ない取り組む。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し、知識の再確認のため話し合いの場を設ける。ケアの方法を思い付きなどで過度な対応をすることの無いよう、複数人での相談後に対応するよう心がける。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し、知識の再確認と自己啓発のため話し合いの場が必要。利用者の安心安楽な施設になるよう、更なる接遇改善を目指していく。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体への働きかけは出来ていないが、個々のスキルアップの支援をする。学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族・本人にとって満足・納得して利用していただける施設となれるようにしたい。契約締結時・契約解除時のヒアリングを重要視し行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナによる影響で機会を設けることは行っていない。個別の面会時や問い合わせ時に要望や意見・思いを傾聴し反映させたい。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・各ホームでの会議を始め、代表者・管理者が現場に赴く機会を多く持ち意思・意見を述べやすい環境作り働きやすい環境を目指す。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則に則った勤務体系に縛られず、職員個々の事情に配慮(希望休も含め)した勤務となるよう善処している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の特性を考慮し、職員の個性を生かすことのできるよう善処し研修の機会をもうけている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は新型コロナによる影響で交流する機会が少ないが、交流機会では情報交換をし信頼関係を築けるようにし知識の向上にも努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の家事参加機会の場を作り、家族様の話を聞き話しやすい環境を目指す。寄り添う介護に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在のADLや思いを考慮し、本人の人生に寄り添った支援となるよう話すことから努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との信頼関係構築を大切に、意見を反映させやすい関係性づくりに努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残すとともに、必要に応じて利用者の表情・言葉・心情などの職員による主観的な記録も残している。それらに基づき、職員間での話し合いの場をつくり議論と結論、実践と見直しの繰り返しとなるよう努めている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用規約・契約内容はあるが、ニーズがあれば答える事の出来るよう、臨機応変に職員・多職種・他施設関係者・家族と連携連絡を取り対応している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策に留意しながら、地域のサークル活動を見学させていただき安全な暮らしが出来るよう考える。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慣れ親しんだかかりつけ医での往診を励行し、施設かかりつけ医以外でも往診対応の受け入れを行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には出来るだけ早期に、情報伝達が行なわれるよう資料の作成・共有・送付をしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に時点での本人・家族の意向を確認するとともに、本人の状態の変化に応じて都度、本人・家族・他施設を含めた関係者と随時連携をとって取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成と周知徹底をするとともに、急変時に施設内での円滑な連携が行なわれるよう連絡体制の確認を定期的に行い身につける。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定や人員希薄な状況を想定した訓練を実施している。緊急時の地域協力も相互に行えるよう自治会を通して依頼している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などに簾を使用し、入居者それぞれの個人のプライベートを大切にしている。入居者様の状態に応じて、ルールの中で共同生活を楽しんでいただいている。人格尊重した言葉かけを意識する様に日ごろから心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話を大事にして、徐々にコミュニケーションを構築して、本人が得意な事等で自己決定や選択の判断がしやすい環境を作るため多く会話の機会を作るようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、本人様の訴えや家族様の助言をもとに意見を尊重して要望を聞き入れ提案していこうと考えながら支援していきたい。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえなどのお手伝いなどで、自分もこの料理に参加したという気持ち。食後、入居者様のご厚意で、食器拭きやお膳拭きを手伝っています。職員と入居者様が協力した生活でそれぞれの役割を形成している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録するとともに、毎月体重測定を実施している。入居者の特変あれば、インアウトチェックも行い、改善に努めている。敷地内散歩などの後の水分補給も行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケア介助・声かけを行っている。また定期的に訪問歯科診療を取り入れ、口腔ケア方法の指導を受け、各入居者の口腔現状を管理されている。歯科医師による職員に対し勉強会も開始している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人様のADLや排泄状況に関して、職員同士で話し合い、適切な排泄パターンを見出している。また、QOLの向上に向け、排泄の失敗を減らせるよう考え支援をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様のその日の気持ちや健康状態を考慮して入浴の順番を変更したり、本人様の気持ちを尊重して個人浴も取り入れています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者は、出来るだけ眠剤を処方せず、日中の活動量を増やすなどし、夜間の睡眠時間を確保できるようにしたい。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の使用や変更点があった場合、看護師と連携して薬剤調整をしている。介護職員も服薬管理の大切さを認識し、変更があればチーム内で共通認識として徹底したい。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により外出は控えています。敷地内、及び近所の散歩に時間を掛ける様に心がけている。又、女性陣は、食後の食器拭き、おぼん拭き、簡単な料理の下ごしらえ等、男性陣は模様替え等のお手伝いもやって頂いている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は難しい状況。敷地内にてリハビリを兼ねて散歩を繰り返し実施。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではお金を持って頂いていません。必要なものか否かを職員同士で話し合い購入している。基本的には本人様と相談して、高価な物は家族様に連絡報告し希望を伝える。家族様の判断にて随時購入している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの郵便代行や電話のご要望には応える様にしている。又、毎月家族様へ向けたコメント文を通信し、ご本人様の様子や過ごし方特変などをお知らせしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は比較的に地味な色合いで落ち着いた雰囲気を出している。廊下にはイベント時の作品や写真を掲載し、季節感を意識した雰囲気作りを心がける。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席、食事席に関して、気の合う入居者、話が好きな入居者など、席の配置を考えている。また、入居者の特徴を考え、考慮した配置となっている。ソファ席も用意している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内配置に関しては、本人様が落ち着く様な嗜好を考え配置・危険性のない配置をしている。また、家族様とも話し合いを通じ、危険が生じないような配置随時適応している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない利用者様に対しては、大きくフラッグ状に名前を記入し表札代わりにわかりやすくする。自身で行動が決められるようにするなどの工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 iコーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 長良の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192600217-00&SerVicOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染予防の為現状では地域の方だけではなく家族との面会なども極力規制。日常生活の中では実践できる家事活動を個々に行い生活活動に参加。また規制解除時はできる限り外出を行い単調生活を避けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為積極的には行われていません。但し日常の散歩時など地域の方に挨拶を行い地域の中に一緒に生活していることを知って頂けるように努めています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年4月より対面開催をしている。会議では、過去3年間の運営状況と、職員状況等を報告。又、事故検証等の具体例を報告したり、施設内コロナ感染時対応のシュミレーションも報告した。その後、各ホーム内でも各々徹底した。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内施設連絡会の開催が行われており、施設周辺との連携、協力関係を築けるように取り組んでいます。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、定期的に勉強会を行い職員の身体拘束に関する知識を高め共通の認識をもてるように務めています。また転倒などのリスクのある利用者もいるため無意識化で行動を制限していないかを確認するよう心掛けています。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、定期的に勉強会を行い知識の向上に努め共通の認識をもてるように務めている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者様には、制度に基づきご家族様または、関係者様と詳細を打ち合わせ取り組んでいます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書及び重要事項説明書に基づき、納得・理解して頂けるまで説明をし、契約を行っている。又、ケアマネによる現場説明も極力実施している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションにて希望されていること傾聴し意見をまとめ会議にて検討を行っています。またご家族様の声が届くように棟玄関口に意見箱を設置し意見が取り入れやすいように心がけています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者に適宜疑問点や、改善点等の意見を聞ける環境を作り会議にて検討を行っています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員会議・ホーム会議を行い、職員の意見交換の場を設け、意見交流を行っている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護スタッフの知識の向上の為、社内の勉強会だけでなく、各種講習や勉強会など自己のスキルアップをする機会を持っている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ感染予防の為現在は施設での積極的な交流は行っていません。オンライン上での勉強会などは施設として積極的に参加を推奨しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に介助を行うのではなく、利用者の残存機能を確認しつつ積極的に日常生活の活動に参加できる環境を作っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中で利用者様の日常生活の中で持たれている思いや不安など、会話を傾聴したり動作を観察し、利用者様に寄り添い対応できるように務めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議にて、担当者を中心に会議を行い、ケアマネ・看護師・介護職員とで検討し介護計画を作成している。必要に応じ医師との連携を図る。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者様の記録を残し、利用者の悩みや思い状態の変化に対して改善点を提案し適宜検討し介護計画書に反映している。職員同士情報共有のため新規の変更に対しては適宜張り紙や申し送りノートを作っている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ内の情報共有だけでなく定期的に家族様に利用者様の状態を報告し変化がみられる際はスタッフ、家族等様々な対応ができるように検討している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為外部のボランティアやレクリエーションなどはなかなか行えていないが、レクリエーションの道具を貸与して頂き日々の生活を楽しめるよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現状コロナ感染予防の為面会を制限している為積極的な活動は困難であるが、動画や写真などを使い利用者様の昔の生活拠点での思い出を話す機会を持つようにしている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時などの際、ケア記録をもとに医療機関担当者との協議し、情報交換を行い連携している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、ケアマネージャーへ状態の変化を早期発見対応できるように心掛けている。利用者の状態はこまめに家族に報告をおこない、今後に対しての思いを傾聴し終末期に向けて行っていく援助について検討しながら行っている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者各部屋に緊急時の対応マニュアルを設置し緊急時でもスムーズな対応が行えるように心がけている。また看護師、ケアマネージャーと状態の変化を報告し早期発見に心がけている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い緊急時速やかに避難できるよう訓練を行っている。また事務所に避難マニュアルを貼りいざと言う時に実践できるように心がけている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の場の為どうしても個々のプライバシーを保つのが難しいところもあるが、利用者様らしく生活して頂けるよう声掛けや、活動をしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様への声掛け等行い、個人の意思決定を促す様に心掛けている。またやれる事を見つけ出し参加して頂きやすい環境を提供できるように心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の為今までの生活と違う場面もあり入所時は抵抗を感じられることもあるが、今までの生活とここでの生活の妥協点を見つけ出し利用者様の生活のしやすいリズムを作るように心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度は季節の物を取り入れた食事を一緒に作ったり食べに行ったりしている。また仕込み片づけ等お手伝い頂ける利用者様に積極的に参加できる環境にしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期で行われる体重測定、日々の食事量、水分量など変化がみられる利用者に対し医師、看護師に適宜報告を行い相談指示を頂き対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施。義歯の漂白洗浄は夕食後に実施している。歯科医師、看護師に口腔内の状態を定期的に報告を行い口腔ケアの指導して頂き実施している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い排泄コントロールに努めている。排泄チェック用紙を使用し状態の確認を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくりと入浴して頂けるよう心掛けている。又、入浴の際、皮膚の状態・特変の確認をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理は24時間実施し、居室等で快適に過ごされるよう施行している。状況に応じ、ベッドで安心して休息して頂いている。居室に閉じこもりを避けたり、昼夜逆転現象等にならない様声掛けしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を共有し、理解・服用をしている。棚、BOXによる服薬管理も実施しており、変化がある場合等は医師・看護師に報告を行い、指示の基、支援を行っている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの性格・力を把握し、家事手伝いに取り入れている。利用者様の出来ること出来そうな事等の見分けも大切に有り常に意識している。現状は外部のレクリエーションは行っていないがスタッフにて季節のイベントを行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は敷地内や、地区周辺の人が数区内所を中心に散歩などを行っている。コロナ制限が解除されている際はソーシャルディスタンスのとれる場所を中心に棟利用者全員で外出を計画。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設が行っている。入居者様の希望等があれば、必要に応じ検討をし購入をしている。大きな買い物はご家族様に電話にて都度確認し、極力、利用者様の意向に沿うようにしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は相手側の了承がある場合提供を行っている。手紙を希望される方はあまりいないが月に1度スタッフからの家族へ報告をする際、以前出されていた方には声をかけ便箋をお渡しし一緒に郵送している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気を行いコロナ感染予防に努めている。またカレンダーやレクリエーションの作品などを行い、季節ごとの作品を作ったり飾りつけを行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席のほかにソファや、ベランダにベンチを置き日光浴を行ったり、他利用者や、スタッフとのコミュニケーションをとったり、自由に活動できるように心がけている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の思い出の物や、家族様の写真などを飾り、その人らしい居室作りに取り組んでいる。また入所後レクリエーションでの思い出の写真や、アルバムなどを作成してお渡ししている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室移動名札を付けたり、イラストを張ったりと分かるように心がけている。		